

映画シンポジウム：アジアを知る

女らしさ

Mohtarama



2010年のヘラートで、2009年のカーズルで、2011年マザレ・シャリフで、フルカ屋のおかみや、抗議運動の場に来る人々、12歳で結婚を余儀なくされた女性が、「女」であることをどのように語るのかを記録したドキュメンタリー映画です。続くパネルディスカッションでは、「女性運動」と呼ばれるものをどのように捉えることができ、そこにどのような希望があるのか検討してみたいと思います。



2020. 2. 20. Thu

18:00-20:30

東京大学 山上会館大会議室

登壇者：鳥山純子（立命館大学）、後藤絵美（東京大学）

◆プログラム◆

- 17:30 開場
- 18:00 開会・趣旨説明
- 18:20~19:20 上映
- 19:20~19:30 休憩
- 19:30~20:20 パネルディスカッション
- 20:20 閉会の言葉

共同主催

- ◆ASNET (東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク)
- ◆科研費基盤研究(A)「イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究」(代表：長沢栄治)
- ◆科研費新学術領域研究「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて」B01班「規範とアイデンティティー」(代表：酒井啓子)
- ◆中東映画研究会



山上会館への
アクセス